

小学校第6学年 E ボール運動 ウ ベースボール型 「ソフトボール」

単元の目標

知識及び技能	テーパーボールの行い方を理解するとともに、ボールを打つ攻撃と隊形をとった守備によって、簡易化されたゲームをすることができるようにする。
思考力、判断力、表現力等	ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えを伝えることができるようにする。
学びに向かう力、人間性等	テーパーボールに積極的に取り組む、ルールを守り助け合って運動したり、仲間の考えや取組を認めたり、勝敗を受け入れたり、勝敗を受け入れ、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。

単元構造図

	1	2～3	4～7	8～9
ねらい	ベースボールを打つに慣れさせたゲームの特徴を把握し、相手の見通しをもつことができる。	ルールを工夫（得点方法・アウトの仕方）し、仲間とベースボールのゲームを楽しむことができる。	チームの特徴に応じた作戦を選び、仲間とベースボールのゲームを楽しむことができる。	6の1ベースボール大会を行い、自分や仲間の頑張りを称賛することができる。
導入	○準備運動を行う。共：心と体をほぐすために、グループやペアでコミュニケーションをとりながら、準備運動をする。			
展開	○学習の進め方を知り、本時のめあてをつかむ。 ○はじめのルールを提示し、話し合いのゲームを行う。共：誰もが簡単に得点することができるように、得点の仕方やアウトの仕方や工夫したゲームを行う。	○工夫するルール（得点方法や教員の工夫）を確認し、本時のめあてをつかむ。共：（1）全ての児童が得点することができるルール ・自己の技能に合わせて教員（バット又はラケット、ティー又はトス）を選択する。 ○ドリルゲームを行う。（時間内キャッチボール、ホームランダービー、フリーバッティング等）共：得点をより多く取ることができるとともに、選択した教員でドリルゲームを行う。	○ドリルゲームを行う。（時間内キャッチボール、ホームランダービー、フリーバッティング等）共：得点をより多く取ることができるとともに、選択した教員でドリルゲームを行う。 ○選択する作戦を確認し、本時のめあてをつかむ。共：誰もが積極的にゲームに参加することができるように、選んだ作戦に応じた役割を明確にする。 ○チームの特徴に応じた作戦（打つ方向、守備位置）を話し合い、自己の役割を確認する。 ○作戦に応じた練習方法と場を選び、練習を行う。	○6の1ベースボール大会を行う。 ①はじめの言葉 ②準備運動 ③ルールの確認 ④メインゲーム ⑤結果の確認 ⑥表彰式 ⑦終わりの言葉
終末	単元の見直しをもつことができるように話し合いのゲームの感想を伝え合う。	○本時の学習を振り返り、次時の学習を見通しをもつ。共：互いの考えや取組を認め合うことができるように、全体で称賛し合う場を設定する。	○本単元の学習を振り返る。共：自他の取組のよさを認め合い、次単元への意欲を高めることができるように、振り返りを全体で交流する。	

片付け・振り返り（授業後アンケート）の記入

知識・技能	②	③	④	①
思・判・表	①	②	④	③
主	②	④	①	③

評価規準	【知識・技能】 ①テーパーボールの行い方について、言ったり書いたりしている。 ②止まったボールや易しく投げられたボールをバットでフェアグラウンドに打つことができる。 ③打球の方向に移動し、捕球することができる。 ④捕球する相手に向かってオーバーハンドスローで投げることができる。
------	---

【思考・判断・表現】	①誰もが楽しくゲームに参加できるように、ルールを工夫している。 ②チームの特徴に応じた作戦を選び、自己の役割を確認している。 ③攻撃や守備の動きについて考えたことを仲間に伝えている。
------------	---

【主体的に学習に取り組む態度】	①テーパーボールに積極的に取り組もうとしている。 ②ゲームのルールを守り、仲間と助け合って運動しようとしている。 ③ゲームの勝敗を受け入れられている。 ④ゲームや練習において、動きを見合ったり、話し合ったりするときに、仲間の考えや取組を認めようとしている。
-----------------	---

すべての児童が仲間と運動を楽しむことができるルールや教具の工夫
 小学校第6学年 E ボール運動 ウ ベースボール型 「ソフトボール」

1 単元の目標

- ティーボールの行い方を理解するとともに、ボールを打つ攻撃と隊形をとった守備によって、簡易化されたゲームをすることができるようにする。 【知識及び技能】
- ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】
- ティーボールに積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動したり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】

2 共生を基盤とした授業づくりにおける仕掛け

(1) 全ての児童が得点することができるルールや教具の工夫

本学習では、全ての児童が1試合の中で必ず得点することができるように、「得点方法」と「教具」の工夫を行った。

①得点方法の工夫

本学級に在籍する肢体不自由を有する児童（A児）は、ウォーカーや補助杖を使用して日常生活を行っており、ベースランニングを行うことに困難さがある。そこで、打者と走者の役割をチーム内で分担し、打者と走者が協力して得点できるようにした。役割を分担したことで、A児だけでなく運動に苦手意識がある児童も打つこと、走ることに専念することができ、運動を楽しむ様子が見られた

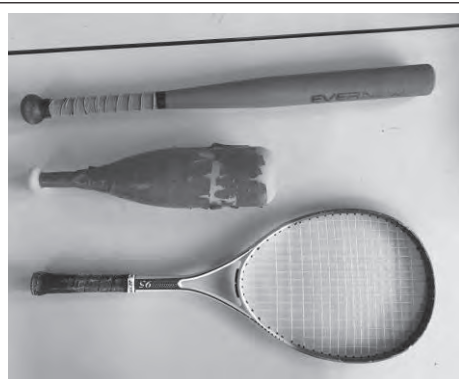
【資料1】。また、得点は走者の進塁数とし、打者の技能に差があっても、全ての児童が1点以上の得点を獲得することができた。



【資料1 打者と走者を分けて攻撃する様子】

②教具の工夫

バットでボールを打つ経験が少ない児童は、ボールを遠くに飛ばすことが難しい。そこで、全ての児童が一律に同じ用具を使用するのではなく、2種類のバット及びラケットから選択して、打つこととした【資料2】。これにより、苦手な児童でもボールをミートしやすくなり、打球をより遠くまで飛ばすことができ、運動を楽しむ様子が見られた。



【資料2 選択できるバットとラケット】

(2) 全ての児童が仲間と協力して守備を楽しむことができるルールや教具の工夫

①アウトの仕方の工夫

A児が守備につく際には、防球ネットを活用し、一定の守備範囲を確保できるようにした【資料3】。守備側のアウトの仕方は、単元前半と単元後半でルールを変化させた。

まず、単元前半では、守備範囲を制限したり、送球をなしにしたりして、アウトゾーン（フラフープ）に守備者全員が集まることでアウト（進塁阻止）するようにした。これにより、打球に応じてどのアウトゾーンでアウトにするかチームで声をかけ合いながら守備をして



【資料3 防球ネットを使って守備をするA児】

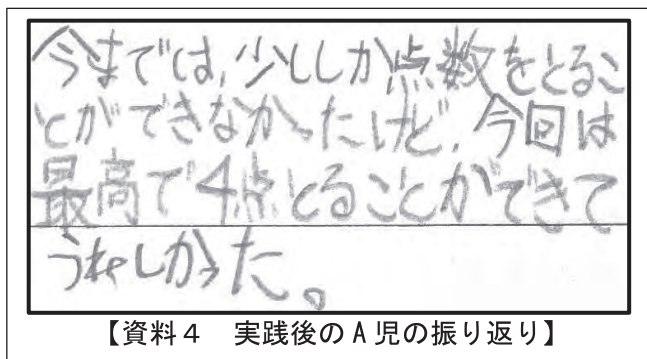
いる様子が見られた。

次に、単元後半では、チーム内で作戦を選択したり、考えたりして、仲間と協力することができるように、守備範囲を制限せず、進塁先のアウトゾーン（フラフープ）にボールを運び込んでアウト（進塁阻止）とした。これにより、守備側に、中継プレイやベースカバーなどの役割分担が生まれた。

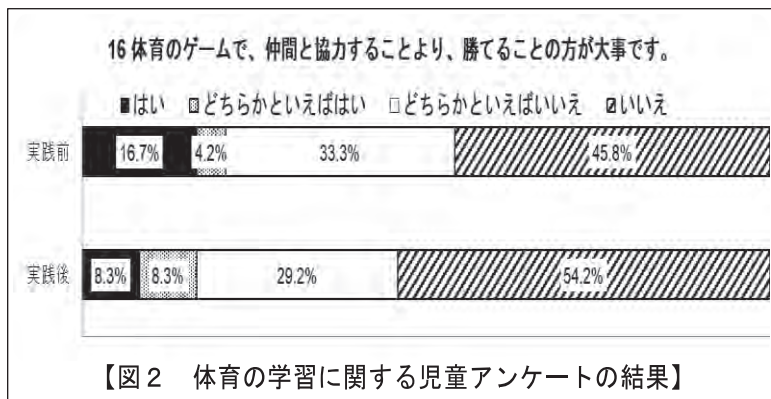
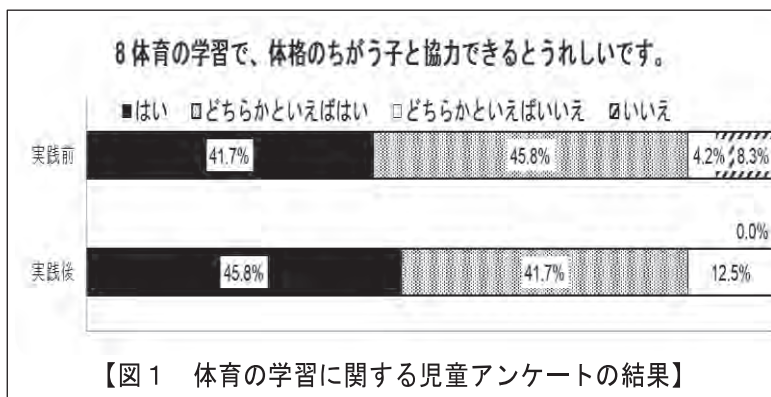
3 成果と課題

(1) 成果

- 実践後の振り返りにおいて、A児は、「今までは少ししか点数をとることができなかったけれど、今回は、最高で4点もとることができたからうれしかった」と記述した【資料4】。得点し易くルールや教材を工夫したことが、A児にとって有効であったと考える。また他の児童の中にも、「（走者のおかげで）4点とることができてうれしかった」や「みんなで考えた作戦通りにアウトが取れて面白かった」という振り返りが見られた。攻撃の面や守備の面でルールや教具の工夫を行ったことが有効に働いたためだと考える。



- 単元実施前後に行った「体育の学習に関する児童アンケート（21項目質問紙アンケート）」において、体格のちがう子と協力できるとうれしいと答えた児童が増え、仲間と協力することより、勝てることの方が大事と答えた児童が減ったことから、単元を通して技能差や障がいの有無による差に関わらず児童同士が協力して運動に取り組む学習が展開できたと考える【図1】【図2】。

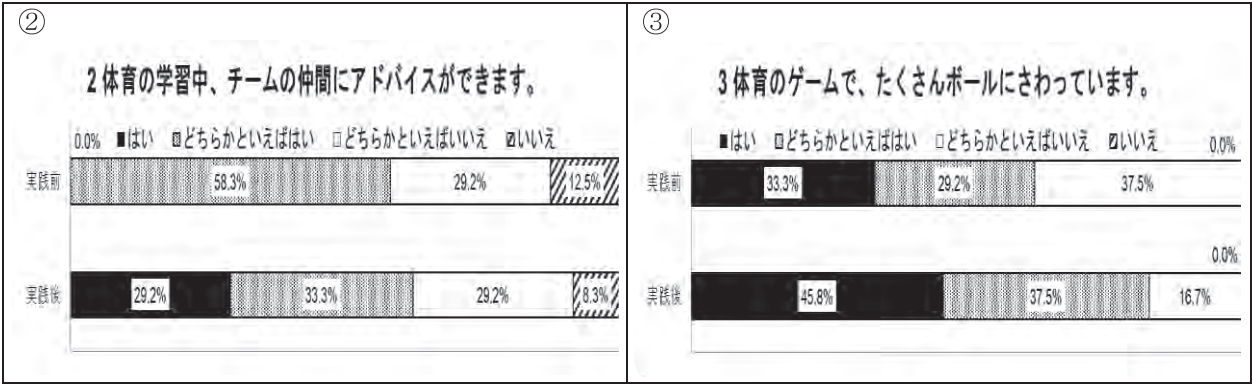


(2) 課題

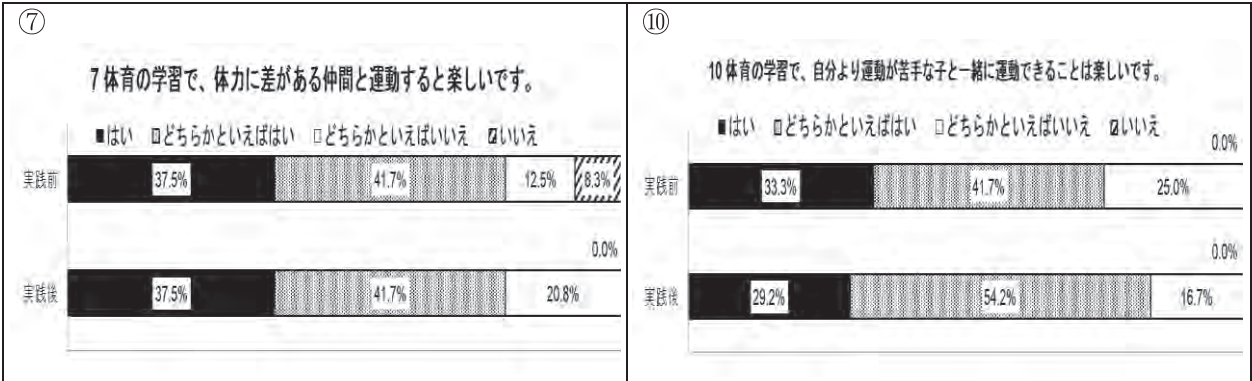
同じグループに運動の苦手な児童がいると困ると感じる児童や、勝つことが何よりも大切だと考える児童が数名いた。今後、本実践以外の手立てを考え、勝敗だけではなく仲間と協力して運動することを楽しむことができる児童を育成していきたい。

【児童生徒の変容】

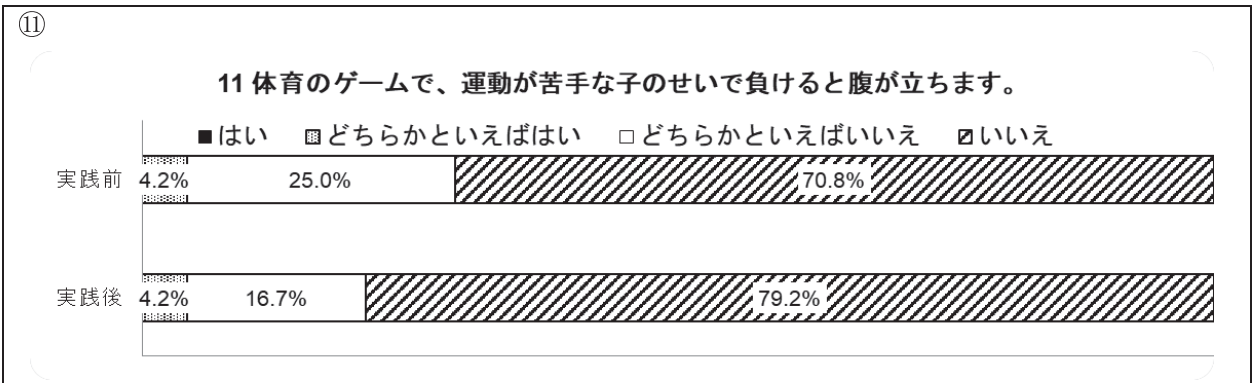
〔Ⅰ リーダーシップ〕



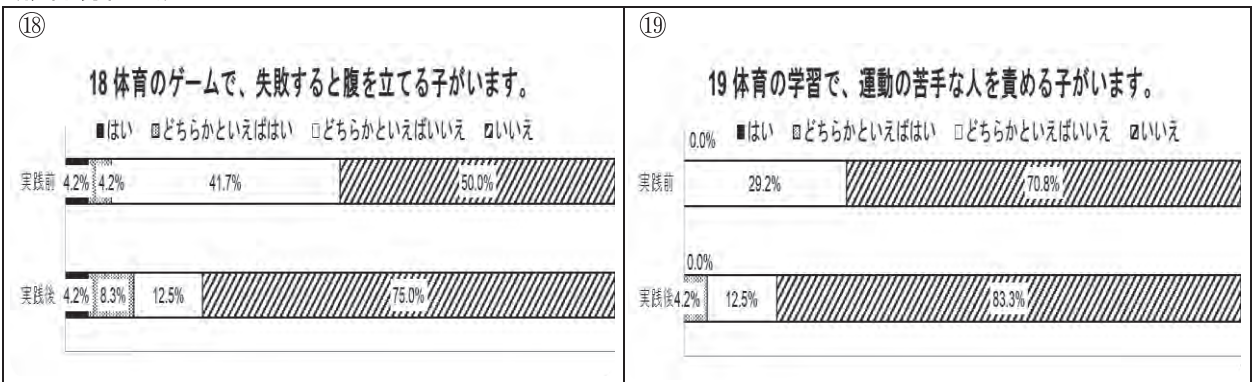
〔Ⅱ ちがいの受容〕



〔Ⅳ 失敗への排斥〕



〔排除雰囲気〕



【授業実践協力者の声】

ルールや教具を工夫したことで、障がいの有無にかかわらず、みんなが楽しめるゲームができました。これからは、他の運動領域でも、アダプテッドスポーツの視点で児童同士がルールを話し合う実践を行っていきたいです。

